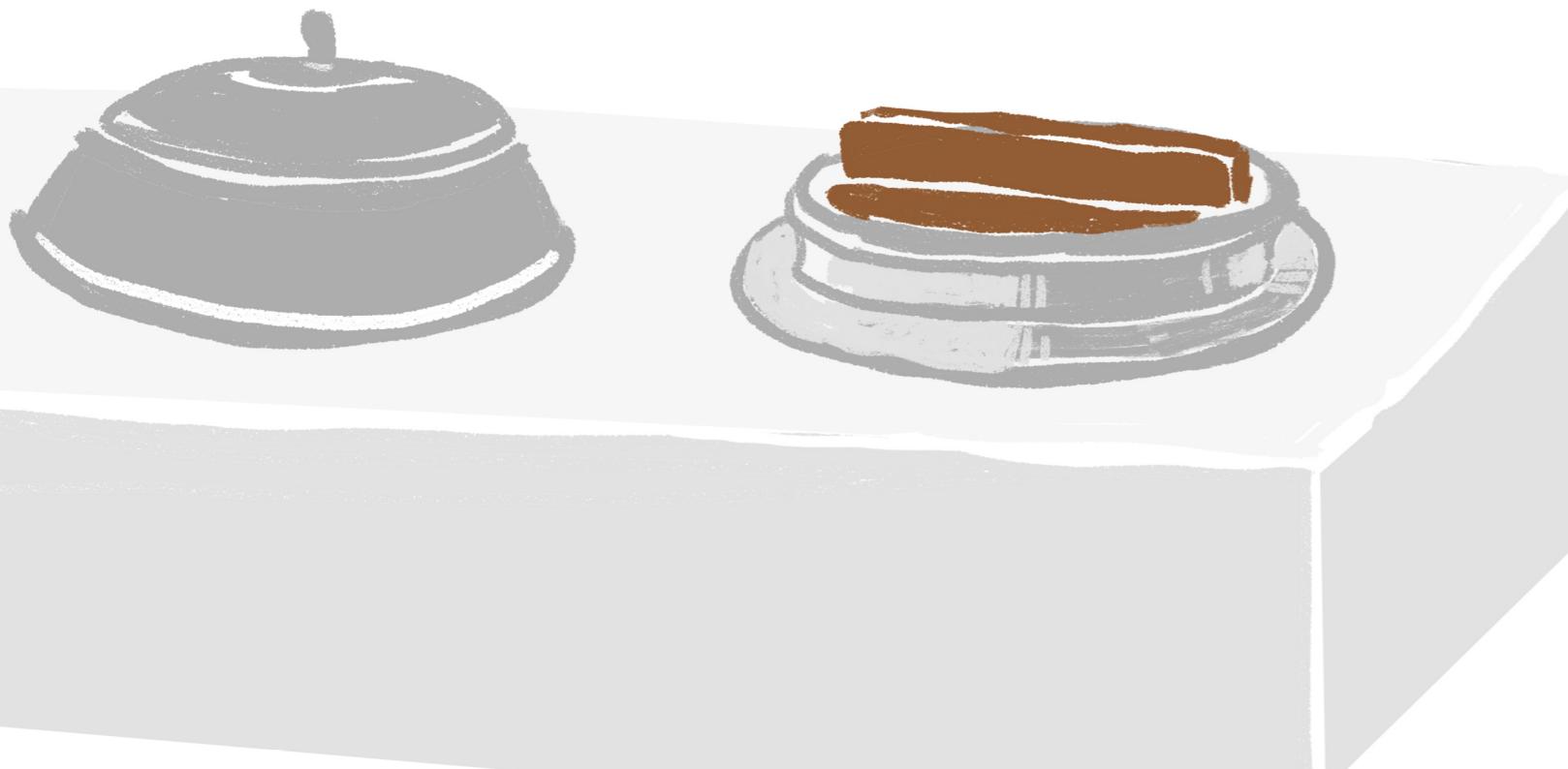


「まことのお母さま、こんなに あさ はや
かあ 早くから
で 出てこられたのですか」

「まことのお父さまの おしょくじの
とう じゅんびをしようと おもって」

まことのお母さまは あさ はや しろ え ぶ ろん
かあ 早くから 白い エプロンを つけて
だいどころで しょくじの じゅんびをされました。
まことのお父さまの けんこうを かんがえながら
まいにち こんだてを きめ まごころを こめて
りょうりを つくられました。



ある日の ことです。

ひと
人の けはいに まことのお母さまが 目を さますと、
まことのお父さまが もう おきていらっしゃいました。
あさ 4時にもならない 早い じかんでした。

まことのお父さまと まことのお母さまは まえの日
よる おそらく 食口たちに みことばを かたられ、
よなかに なって ようやく やす 休まれていたのです。

まことのお母さまは 2じかんしか ねていませんでしたが
すぐに おきて まことのお父さまと いっしょに おいのりをし、
あたらしい いちにち 一日を はじめられました。

このように まことのお母さまは あさ 早くから
よなかまで まことのお父さまと すべての じかんを ともにされました。





「そろそろ かみを きらないといけませんね」

まことのお母さんは まことのお父さんの
さんぱつを ちょくせつ してさしあげました。

かみを きるのが じょうずな まことのお母さんが
ちよき ちよき チョキチョキ はさみを 入れると
まことのお父さんは とても すてきになられました。



ぱ ち ん ぱ ち ん ぱ ち つ ぱ ち つ ぱ ち つ
パチンパチン パチッパチッパチッ

「さあ おわりましたよ」

「じぶんで きっても いいのだけれどね・・・・・」

「お父さまの 手のつめ、足のつめは わたしのほうが
よく 見えるんですよ。ふふふ」

まことのお母さまは まことのお父さまの 手足の つめを
きってさしあげるのが おすきでした。
まことのお父さまは、そんな まことのお母さまを
あいと かんしゃに みちた まなざしで 見つめられました。



とういつ
統一きょうかいは 韓国だけでなく
せかいじゅうに つくられました。
まことのお父さまは ぜんせかいを
まわりながら 食口たちに みことばを
つたえられました。



「みことばを かたるとき あせを たくさん かかるから
シャツを もうすこし 入れておかないと」

まことのお父さまが がいこくに 行かれるたびに
まことのお母さまは りょこうかばんを つめてさしあげました。
どんなに いそがしくても まことのお父さまの りょこうかばんは かならず
まことのお母さまが ちょくせつ ねんいりに じゅんびされたのです。





それは とてもとても さむい ふゆのひ日でした。

「おぎやあ おぎやあ」
「かわいい 女の子ですよ」

きょうかいが まずしくて だんぼうも つけられない
さむい へやで まことのお母さまは 子どもを
お生みになりました。

子どもを 生んだあとは からだを あたたかくしなければならないのですが、
さむい へやで すごしたために まことのお母さまは からだじゅうが いたみ、
ひどく むくんでしまう びょうきに かかってしました。

「まことのお母さま、だいじょうぶかしら。
きょうも ぐあいが わるくて おきあがることも できずにいらっしゃったわ」

食口たちは まことのお母さまの ごけんこうを 気づかいました。

